



富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン

～ 38 アムソニア・タベルナエモンタナ ～

職藝学院

教授 渡邊美保子

アムソニア・タベルナエモンタナは北米原産の長命な宿根草です。日本に自生しているチョウジソウと同じ仲間です。チョウジソウは、富山県で絶滅したとされていましたが、2019年に53年ぶりに旧利賀村で発見されたとのこと。アムソニア・タベルナエモンタナはチョウジソウに比べると草丈が高く、花も葉も大きく、たくさんの小花が集団で咲きます。5月に星の形をした淡いブルーの花が咲き、草丈は90cm程度、1年ごとに茎の本数が増え株立ちになります(写真1)。11月には葉がレモン色に変わるので、開花から秋の黄葉まで長く楽しめる宿根草です。



写真1 アムソニア・タベルナエモンタナの花。5月下旬。葉は秋に美しいレモン色に変わる。

アムソニアの新芽は、4月初旬になると地面から突き出てきます。アスパラガスが出てきたのかと思うくらい、おいしそうな姿になります。4月中旬になると、細長い葉は茎にピタリとくっつきながら伸び始め、4月下旬になると、先端の葉が重なり合って抹茶色にそそり立ってきます。この時すでに葉に守られながらつぼみたちも成長しているのですが、真上から顔を近づけないと見ることはできません。しばらくすると、葉に守られたつぼみたちの一つが、重なりあった細長い葉をかきわけて、ひょっこり飛び出し外の世界を偵察し始めます(写真2)。一つ目の勇気のある花が大丈夫の合図を出しているのでしょうか、次々と流れる滝のように咲き始めます(写真3)。



写真2 裏側に毛のある細長い葉の隙間から1つめの花が咲き出す。5月初旬。



写真3 5月初旬から次々と開花。やがて、花茎は立ち上がり、星型の花が空中を舞う。

星型の淡い青色の花に茶色のシミができればはじめると、花弁がしわしわに乾いてちぢんできます。花弁が落ちるとその下に2本の紫色のツノのような形の実ができます。実は1日ごとに長く伸び、緑色に変わってゆきます(写真4)。やがて、どんどん伸びてぶら下がり、9月中旬には茶色になって地面に届くほどの長さになり、種がはじけます(写真5)。



写真4 Vの形の実。長さ19cm。6月下旬。



写真5 実が熟して種が飛び出した後。11月中旬。

アムソニア・タベルナエモンタナは、日当たりを好みますが、乾燥を嫌いますので西日が当たらない所に植栽すると良いでしょう。草丈が高くなるとともに、実ができると茎が下がってきて横に広がるので、花壇の後方に植栽することをおすすめします。実の重みで茎が倒れてきたら、株の外側の茎だけ根元から切ると広がりを抑えることができます。切り口から白い液が出るので、肌の弱い方は触れないように気をつけましょう。